

2020年度 第2回 北大本番レベル模試 国語採点基準

1 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A項

- a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。
- b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されています。
- c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。

d 解答通りという条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B項

- a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。
- b 加点要素でも減点要素でもない部分もありえます。その部分は加点も減点もしません。C項次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。
- a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。
- b 脱字。
- c 文末の句点の脱落。
  - \* 字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。
- d その他不適切と判断せざるをえない箇所。
- e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。たとえば「…とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。
  - \* ただし、「ことである」「こと」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」「などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

- a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。
- b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。

- c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたものの。
- d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 古文あるいは漢文の訳を記述する設問の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

2020年 第2回 北大本番レベル模試 第1問

【全問を通して】

- ・制限字数の半分に満たないものは不可。
- ・誤字・脱字・不適切な表記等は1点を減じ、ひとつの解答において同意語句で複数回同じ誤字があった場合は一回のみ減じることとする。

\*解答例の冒頭の数字はモニターの整理番号である。

問一 7点 (各1点)

- 1 警告 2 抗力 3 欧米 4 覚悟 5 献身 6 暗鬼 7 乱暴

問二 9点

模範解答

A〇5点

B〇4点

一人の医師が患者の治療すべてから生死に関わる対応までを職務とする日本独自の考え。(40字)

【A・Bに関して部分採点を行う】

前提 解答は「主治医の対応」を軸とする。患者の視点で書かれたものは不可とする。

A 主治医が患者の対応すべてにかかわることを職務にする、という内容が書かれていれば5点を加えるが、この「対応すべて」の具体的な内容(治療だけで無く生死に関わる対応まで)について触れていなければ不十分として2点を減じる(「すべて」止まりであれば3点)

B 日本独自、日本特有について触れていれば4点を加える。

問三 9点

模範解答

A〇4点

医師を主治医と思う患者と治療はチームで行うものであるとする病院とで

B〇5点

医師の捉え方の相違がなくなるから。(50字)

(別解)

A〇4点

患者と医師の対立は医師を主治医と思う患者と治療はチームで行う病院とで

B〇5点

医師の捉え方の相違が必要だから。(50字)

【A・Bに関して部分採点を行う】

A 患者は医師を主治医と思う、病院は治療はチームで行うものと思う、という患者と病院の「捉え方の違い」について適切に説明されていれば4点を加える。

B 「成立しない」理由の解答として、ストーリーを構成するために、

「捉え方の相違がなくなる(だから成立しない)」または

「(成立させるために)捉え方の相違が必要」という趣旨が一般論として適切に説明されていれば5点を加える。

A・B共通して。具体的事例や固有名詞を示しての説明は、一般論としての説明に適さないので不可とする。

問四 10点

A〇4点

患者の家族は患者が治療中に死なないことを前提にするため、

B〇4点

C〇2点

患者が死んだ場合、病院がミスを隠していると疑う傾向があるから。(59字)

【A・B・Cに関して部分採点を行う】

A 患者の家族は患者が治療では死なないという前提があることを適切に説明していれば4点を加える。

B 患者の家族は患者が死んだら病院のミスを疑うことについて適切に説明していれば4点を加える。

C 「延長線上にあるように思われる」の説明として、傾向がある、風潮がある、等の表現が適切に書かれていれば2点を加える。(A・Bのみで断定していればCについては不可)

問五 15点

A〇5点

最近では患者は死なないことを前提に医療が行われ、

B〇5点

患者が死ぬと医療ミスが疑われトラブルになるので、ミスをしないAIに医療を委ねればよいが、

C〇5点

それでは人間らしい、心のこもった医療ができないと考えている。(98字)

【A・B・Cに関して部分採点を行う】

A 「医療は患者が死なないことが前提」や「患者の死は想定外」という趣旨が適切に表現されていれば5点を加える。

B 「患者の死は医療ミスが疑われるのでAIに医療を委ねよ」という趣旨が適切に表現されていれば5点を加える。

C 「AIでは人間らしい心のこもった医療ができない」という趣旨が適切に表現されていれば5点を加える。

2020年 第2回 北大本番レベル模試 第2問

【全問を通して】

- ・制限字数の半分に満たないものは不可。
- ・誤字・脱字・不適切な表記等は1点を減じ、ひとつの解答において同意語句で複数回同じ誤字があった場合は一回のみ減じることとする。

\*解答例の冒頭の数字はモニターの整理番号である。

問一 5点

解答(抜き出し問題、表記上のミスがあれば1か所につき1点減ずる)  
虚のコミュニケーション(11字)

\*「コミュニケーション」という本文とは異なる表記は他の記述解答では問わないが、ここは抜き出し問題なので表記上のミスとして扱う。

問二 10点

A〇5点

芸術はムダから生れるものであり、

B〇5点

怠けることでムダが生まれるならば怠けは非難すべきではないという考え。(50字)

【A・Bに関して部分採点を行う】

A 芸術はムダから生まれるという趣旨が適切に表現されていれば5点を加える。

B 怠けは非難すべきではない、芸術を生むために積極的に評価すべきだ、といった趣旨が適切に表現されていれば5点を加える。

問三 10点

A〇5点

B〇5点

文学は楽しみの言葉で、実用的な働きをするものではないこと。(29字)

【A・Bに関して部分採点を行う】

A 「文学は楽しみの言葉」や「文学は娯楽」が適切に表現されていれば5点を加える。

B 「文学は実用的な働きをしない」という趣旨が適切に表現されていれば5点を加える。

問四 10点

A○5点

実用を離れた無駄な言葉から発明・発見や文学という芸術等の文化が生まれるため、

B○5点

ムダには価値があるから。(50字)

【A・Bに関して部分採点を行う】

A 「ムダ（無駄）な言葉から芸術や文化が生まれる」という趣旨が適切に表現されていれば5点を加える。

B 「無駄には価値がある」という趣旨が明確に表現されていれば5点を加える。

問五 15点

A〇5点

言葉にはコミュニケーションを成立させるためにムダが必要で、

B〇5点

伝達すべき必要最小限を伝えるだけで成立するものではなく、

C〇5点

D不備は2点減ず

筆者が誤解されたのは言葉にそのムダが不足したためだと考えている。(89字)

【A・B・Cに関して部分採点を行いDの不備はABCの合計から減点する】

A 「コミュニケーションを成立させるために言葉にはムダが必要」という趣旨が適切に表記されていれば5点加える。

B 「コミュニケーションは必要最小限の伝達だけでは成立しない」という趣旨が適切に表現されていれば5点加える。

C 「筆者の言葉にムダがなかったから誤解された」という趣旨が適切に表現されていれば5点加える。

D 「…と考えている」という記載がなければ合計から2点減じる

\*本文中の表記「コミュニケーション」を「コミュニケーション」と記載するのは問題ない。



2020年

第2回 北大本番レベル模試 第2問

問一 (3点×3)

問一・イ・模範解答例

a (1点)

b (1点)

c (1点)

まずはじめに幽玄という名称を聞くやいなやきつと困惑してしまつてあつう。 (3点)

【各部の採点】 3点満点。加ポイント3箇所

a 「幽玄という名称」……1点。「幽玄という名」の意。完答。

b 「聞くやいなや」……1点。「聞く」+即時。完答。

c 「きつと困惑してしまつてあつう。」……1点。「きつとくだつう」の強意用法+「困る」の意。完答。

問一・ロ・模範解答例

a (2点)

b (1点)

深い余情やそれとなく漂う情趣という美德は自然とそなわるものだろう。(3点)

【各部の採点】 3点満点。 加ポイント3箇所。

a 「深い余情やそれとなく漂う情趣という美德」……2点。

「余情やさりげない情趣のすばらしさ」の意。

「これらの美德」「これらのすばらしさ」だけなら1点の減点。

b 「自然とそなわるものだろう」……1点。

「自然に・ひとりで」の意+「身につく」。完答。

「そなわるものである」のような推量の意味のないものも可。

a (1点)    b (1点)    c (1点)

どれほど紅葉が広がって風情があるだろう。(3点)

【各部の採点】 3点満点。加ポイント3箇所

a 「どれほどくだろう」…1点。「どれほどくだろう」のような程度の甚だしさを推し量る  
というニュアンス。

b 「紅葉が広がって」…1点。「あたり一面を紅葉が占めている」の内容。

c 「風情がある」…1点。「風情がある」「風流である」の意。

# 問一 (5点)

## 問一・模範解答

a (2点)

b (2点)

c (1点)

和歌の深い造詣もなく、言葉の優雅な奥ゆかしさについても理解できていないような人。(40字)  
(5点)

【各部の採点】5点満点。加点ポイント3箇所。三〇字以下の解答は一律マイナス2点。

a 「和歌の深い造詣もなく」…2点。和歌のレベルが高みに達していないの意。

b 「言葉の優雅な奥ゆかしさ」についても理解できていないような」…2点。

「深い余情や目に見えない情趣のもつずばらしさを理解していない」も良い。

「奥ゆかしい言葉遣い」「奥深い言葉遣い」のような解釈。

「目に見える花や紅葉のみを称賛する」は1点。

c 「人」…1点。文末が「〜者」「〜人」となっているか。ここだけ正解は、加点無し。

a ×

b △

c ○

〔解答例1〕目に見える花や紅葉はかりを称賛するような、趣や風情のない人。(三〇字)

・・2点。aの記載無し。bはマイナス1点。cは良し。

# 問三 (5点)

## 問三・模範解答例

a (2点)

b (2点)

幽玄の奥深い情趣とかわいい幼児のたわいもない片言をいとしいと感じる心情とに類似点

c (1点)

があると捉えている。(50字) (5点)

【各部の採点】 5点満点。加ポイント3箇所。三五字以下の解答は一律マイナス2点。

a 「幽玄の奥深い情趣」…2点。「幽玄の奥ゆかしい情趣」も可。

b 「かわいい幼児のたわいもない片言をいとしいと感じる心情」…2点。

「子供のさりげない一言」でも可。

c 「類似点があると捉えている」…1点。「似ているとしている」も可。

説明問題の文末表現。この箇所のみ正解は加点無し。

a ○

b ○

〔解答例1〕 幽玄の奥深い情趣と幼児のたわいもない片言をひたすらいとしいと感じる心情

○ c

とに共通点があると考えている。(50字)

……5点。a b c すべて良し。

# 問四 (6点)

## 問四・模範解答例

a 2点

b 2点

目に見えるものや心情をはつきり表現するのではなく、表面的な言葉に表れない余情や

c 1点

d 1点

目に見えないがそれとなく感じられる情趣が表現されている歌…

(68字) (70字) (6点)

【各部の採点】 6点満点。加<sup>点</sup>ポ<sup>イ</sup>ン<sup>ト</sup>4箇所。五〇字以下の解答は内容が正しくても2点の減点。

a 「目に見えるものや心情をはつきり表現するのではなく」…2点。「見たままの様子や心情を露骨に表現したわけではない(歌)」の内容。見たままを書くという直接表現を避け、間接的な表現で心情が詠みこまれている歌という内容。

b 「表面的な言葉に表れない余情」…2点。

「言葉から滲み出す余韻や余情が表現されている」というニュアンス。「余情」もしくは「余韻」のよ<sup>う</sup>な言葉が使用されていること。使用していなければ零点。

c 「それとなく感じられる情趣」…1点。「おおげさではない(さりげない情趣)」の意味。

d 「表現されている歌」…1点。「〜が表現されている歌」「〜のような(心情が詠まれている)歌」のような文末になっていること。ただしこの箇所のみ正解は加<sup>点</sup>無<sup>し</sup>。

2020年 第2回 北大本番レベル模試 第4問

1 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A

a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。

b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。

ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されています。

c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。

d 解答通りという条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B

a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。

b 加点要素でも減点要素でもない部分もあります。その部分は加点も減点もしません。

C

次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。

a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。

b 脱字。

c 文末の句点の脱落。

\*字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。

d その他不適切と判断せざるをえない箇所

e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。

たとえば「〜とはどういうことか」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理

が行われていないと見て形式上の不備とします。

また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

\*ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである」「などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。

また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

- a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。
- b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。
- c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたものの。
- d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 古文あるいは漢文の訳を記述する設問の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。



## 四 漢文 二十五点

問一

各2点×3＝計6点

B＝もし

C＝すなはち

D＝みづから

▼いずれも解答通り。

問二

4点

ただ個人的な恨みをはらすためだけか、／それとも天下のためか。

●以下のように、二分割して採点します。

- ① ただ個人的な恨みをはらすためだけか、  
② それとも天下のためか。

2点

2点

※①は「私的な仇を返すだけか」「個人的な復讐をするだけか」「個人的な恨みをはらすだけか」など、「唯だ私仇に復せんとするのみか」を適切に訳出してあれば可。もちろん「唯だ……のみ」の訳出がない場合は不可。

※②は「それとも天下のためだろうか」「あるいは天下万民のためか」など、「亦た天下の為ならんか」を適切に訳出してあれば可。

▼「亦た」は「それとも」「あるいは」「はたまた」などと訳出していることが望ましいが、直訳の「また」「やはり」も可とする。

▼なお「天下をとるためか」「天下統」のためか」など、天下を手に入れるためかと解釈しているものは不可（高祖が挙げたのは「義師」(＝大義・正義のための軍隊)なので、純粹に「天下万民に役立つことをするため」と解釈するのが正しい)。

問三

各4点×2＝計8点

E きやうにかへり(て) / もつてぶんす

● 以下のように、二分割して採点します。

- ① きやうにかへり(て)
- ② もつてぶんす

2点  
2点

▼①←②の順序になっていない場合は全体として加点なし。

▼句点「。」の有無は不問。

▼①は「きやう」「きやう」「かへりて」「かへりて」「でも可。

▼②は「もつて」「でも可。

G すなはちまた / あによく / せいならんや。

● 以下のように、三分割して採点します。

- ① すなはちまた
- ② あによく
- ③ せいならんや

1点  
1点  
2点

▼①↓②↓③の順序になっていない場合は全体として加点なし。

▼句点「。」の有無は不問。

▼①②③ともに解答通り。

御史は告訴状を紛失したふりをし、告訴した者に再び告訴状を書かせ、／ 両者の内容を比較して一致しないことを証拠に、その告訴内容が虚偽であることを証明した。

●以下のように、三分割して採点します。

- |  |    |
|--|----|
| ① 御史は告訴状を紛失したふりをし、                           | 2点 |
| ② 告訴した者に再び告訴状を書かせ、                           | 2点 |
| ③ 両者の内容を比較して一致しないことを証拠に、その告訴内容が虚偽であることを証明した。 | 3点 |

※①・②・③の順序は不問。どんな形であれ、①・②・③の要素に触れていれば可。

※①は「御史は告訴状を紛失したふりをした」に何らかの形で触れていたら、**2点**

※②は「告訴した者に再び告訴状を書かせた」に何らかの形で触れていたら、**2点**。

※③は、(1)「両者へ」新たに書かせた告訴状と元の告訴状との内容を比較して一致しないことを証拠に、(2)「その告訴内容が虚偽であること」(告訴状が嘘であること／訴えた者が誣告を行ったこと／告訴した者が嘘をついたこと／訴えた者が嘘の申告で李靖を陥れようとしたこと など)を証明した」の両方に触れていたら、**3点**。

▼どちらかが抜けていたら ↓ **2点**。

▽たとえば、「訴えた者にもう一度告訴状を書かせて、彼が嘘をついたことを明らかにした」という答案の場合、②2点＋③の(2)で2点＝計4点になります。

▽たとえば、「告訴状をなくしたと言ってもう一度告訴状を書いてもらい、もとのものと比較した」の場合、①2点＋②2点＋③の(1)で2点＝計6点になります。

▽いうまでもなく、答案が全体的に模範解答から遠い場合は0点です。